

令和元年度 南郷小学校学校評価書

| 項目 | 評価の観点 | 教職員自己評価 | | 学校関係者評価 | | 項目に関する分析・意見・提言 など (○職員 ●学校関係者) | 今後の改善に向けて |
|---|--|--|--------|---------|-------|--|--|
| | | 小項目評定 | 自己(職員) | 小項目評定 | 学校関係者 | | |
| 確かな学力と個性を伸ばす教育の推進 | 主体的・対話的で深い学び | 互いに認め合い支え合う支持的風土を育てる学級・学年集団作りを努めた。 | A | A | A | ○支持的な学級風土の醸成に努めた。 ○めあてと振り返り活動が定着してきた。 △研究会の協議時間が短いので持ち方を検討していった方がよいと思う。 △研究会の協議時間が短いので持ち方を検討していった方がよいと思う。 △参観の観点に、子どもたちが学び合っている姿がどこにあったかという観点があるといい。 ●どの学級も授業に集中して取り組んでいる様子が伺われた。 ●学校全体が落ち着いている。 | ・次に授業を提供する学年は、前の研究会の協議で出た意見(成果と課題)などを、授業を考える際に踏まえたり、研究会で話す時間をつくる。そうすると、成果と課題がつかっている様子が見えていくようになるのではないか。 ・指導助言をくださる講師の講話時間(今回30分)を短く(20分ほどに)していただくことで、協議時間の確保につなげる。 ・来年度、参観の観点に「子どもたちが学び合っている姿がどこにあったか」を増やすようにしたい。 ・研究の成果を具体的に示し、次年度に活用させたい。 |
| | | 協同する体験・伝え合う喜び・コミュニケーション能力の育成を図る授業の工夫改善に努めた。 | A | | | | |
| | | 「めあて」「振り返り」や、主体的・対話的で深い学びを追求する授業研究や研修会に取り組んだ。 | A | | | | |
| | 道徳教育の充実 | 生命を尊重する心やいじめを許さない態度などの道徳的実践力を育てる活動を工夫した。 | A | A | A | ○計画的に交換授業を進めることができた。 ○学習の足跡を廊下に掲示し、道徳学習の啓発を進められた。 △交換授業についてのふりかえりをしていきたい。 △図書館便りのように、道徳参観のお便りを発行していけるとよい。 | ・交換授業を行ったふりかえりから、メリットやデメリットを明確にし、よりよい交換授業のあり方を考えていく。(時期や回数、気をつける点など) ・道徳参観の様子の写真や各学年で取り組んだ教材の内容等を伝えていけるようなものを学校便りや学年通信等で伝えていく。 |
| | | 道徳科の授業・評価に関する研究や資料の開発・整備・交流に努めた。 | B | | | | |
| | | 道徳科の時間を公開するなど、保護者や地域との連携も視野に入れて道徳教育に取り組んだ。 | A | | | | |
| | 体力づくり | たくましい心と体を育てる魅力ある授業の工夫改善に努めた。 | A | A | A | ○体力向上のため、一週間学年で業間マラソンをおこなった。 ○学校全体で体育の宿題に取り組んだ。 △廊下の右側歩行の徹底を △体育の宿題のやることをはっきりさせるカレンダーにした方がよい。 なにが○でなにが×かがはっきりしない。 △体育館のドアストッパーを準備してほしい。 ○保健・安全・衛生指導については、熱中症及び感染症対策や救急対応など、職員全体で共通理解のもと取り組んだ。 ○体力向上のために大縄大会を実施している。 ○委員会活動を中心にリレー大会やドッジボール大会を実施できた。 ●休みの日や夕方に家の周りを走る親子の姿を見る。良い光景である。 ●大縄大会等の取組では各クラスが目標を定め、熱心に取り組んでいる。 | ・体育の宿題のトレーニング内容の具体案を提示する。 ・階段の中心にテープをはり、左右ははっきりとさせる。 ・体育館のドアストッパーの設置を検討。 ・体力テストの結果を職員室に大きく掲示し、本校の強みや弱みを全職員に啓発する。 ・なわとびの記録等、廊下などに大きく掲示して、意欲の向上を図る。 |
| | | 健やかな体づくりに向けて、保健・安全・衛生指導に努めた。 | A | | | | |
| | | 運動に親しむ環境作りや体力づくりを推進する運動実践に努めた。 | A | | | | |
| | | 体を動かす気持ちよさを体験させ、進んで体を動かそうとする意欲の育成に努めた。 | A | | | | |
| | 指導改善(組織的・計画的) | 指導体制・指導方法の工夫改善に努め、学力向上を目指した。 | A | A | A | △ガッテンプリントもあり、5年のコイコイ検定が負担になっている。 ○めあて、振り返りの徹底に努めた。 ○行事に合わせて、必要なOJT研修を実施できた。 ○学び合いが自然な形でできるようになってきた。 ○学習活動の視覚化を進めることができた。 △大型テレビは、よく活用できているが、タブレットの活用はできている学級が限られている。 | ・大津市のガッテンプリントに絞って取り組むようにするとよい。 ・学習タイムを利用して、ガッテンプリントに取り組む。 ・月・水・金は新出漢字。火・木は算数のカウントだが、ガッテンプリントに取り組む時間にあてるようにしたい。 ・めあて、振り返りについて、今後も継続していきたい。来年度はさらにステップアップできるように提案したい。 ・今後もOJT研修の実施、活性化に努める。 ・ICT機器の活用を図り、授業改善に努める。 |
| | | 学校全体として指導力・教育力の向上を目指し、職員研修に努めた。 | A | | | | |
| 働き方改革や教育活動の質の改善に向け、計画的な準備・役割分担・ICT活用などの取組に努めた。 | | B | | | | | |
| 育ちと学びを支える連携 | 家庭・地域との連携 | 保護者との個別相談や必要に応じて関係機関との連携を図り、子育てに対する積極的な支援に努めた。 | A | A | A | ○避難訓練や防犯教室の様子をHPにアップし、保護者へ情報発信できた。 ○保護者との個別相談に応じたり、巡回相談の活用や関係機関への相談を勧めたりして、子育て支援に努めた。 ○不審者侵入対応訓練を3学期に実施することができた。 | ・今後も学校行事、学年行事の様子をHPにアップし、情報発信に努める。 ・保護者や子どもへの個別相談に応じられる体制づくりに努める。 ・巡回相談やSC、SSWとの連携を図っていく。 |
| | ニコンコフェスタや地域学習など、保護者・地域との交流や情報発信、参観、懇談会の実施や地域人材の活用に努めた。 | A | | | | | |
| | 家庭・地域と連携しながら防犯・防災教育の推進を図るため、メール配信やホームページなどを活用して情報発信をし、安心・安全な学校づくりに努めた。 | A | | | | | |
| | 保幼小中の連携 | 保幼小中の連携性を意識し、子どもの校種間交流や教師の出前授業などの具体的な連携に努めた。 | B | B | B | ・保幼小中での連携を図るため、公開授業の案内送付、合同研修会の実施と参加に努める。 ・5・5交流や出前授業、中学授業体験等の連携事業を今後も継続、活性化していく。「人、物、時間」の意識化に努める。 ・保幼小連携を図るため、スタートカリキュラムを作成する。 | |
| 南郷大石人権教育研究会(南大人教)など、保幼小・小中の校種の枠を超えた合同研修会や校種間の授業公開を実施した。 | B | B | B | | | | |
| 保幼小の接続期の教育課程の編制等校種間のカリキュラム研究に努めた。 | C | B | | | | | |
| 組織体制の充実 | 生徒指導体制の充実 | いじめや暴力行為、不登校等の生徒指導上の諸課題の早期発見、日常的な予防指導に努めた。 | A | A | A | ○毎週のいじめ対策会議が有効である。 △報連相シートの活用率は高まってきているが、記録が残っていない場合もあるので、事案発生時には記録を残すことを徹底していく必要がある。 ○SC、SSWと連携し、児童理解を深めたり、家庭支援の方針を考えたりすることができた。 ○気になる児童や問題行動について、共通理解をして対応するように努めた。 ○「人、もの、時間」を目に付くところに掲示し、意識の浸透を図るよう努めた。 | ・報連相シートの記入、活用、保存の徹底。学年や学校全体での情報共有に努める。 ・報連相シートをPCでも作成できるようにする。保存フォルダを作成する。 ・いじめ対策会議の時などに児童の顔がわかる工夫。年度当初に撮影した生徒指導用の画像の活用を考えたい。クラスの集合写真でも良い。 ・学校全体で守るルールの徹底。年度の初めや定期的に周知、確認をする。各教室に「南郷小のやくそく」を掲示する。三部会でも徹底できているか確認していく。 |
| | 生徒指導・教育相談等の組織的な対応及び体制づくりに向けて推進に努めたか。 | A | | | | | |
| | 「人・物・時間の意識化」、子どもくらしのやくそく、いじめ対応など、家庭・地域・関係機関との連携による指導に努めた。 | A | | | | | |
| | 特別支援教育の充実 | 支援を要する児童の教育支援計画及び個別の指導計画を作成・活用し、支援に努めた。 | A | A | A | ○中間面談が日程が決まってい取り組みやすかった。 ○年間を通して支援計画を作成、見直しする時間を設定し、切れ目のない支援につとめた。 ○SCや関係機関と連携し、継続した相談をしたり支援の方法を考えたりすることができた。 △年々、支援を要する児童が増加しており、関係機関とのさらなる連携や組織対応が求められる。 ▲これからますます重要になってくる教育である。見守りの必要な児童が増え、その対応も難しいと思うが、引き続きお願いしたい。 | ・中間面談に続いて、三学期末に個別支援計画の評価、引き継ぎについて保護者と面談する機会を設定する。次年度については一学期末の個別懇談時と年度末に。 ・関係機関やSC、SSWとの連携をより密にしていく。 ・支援員さんの適切な配置と活用に努める。 |
| 組織的・計画的な特別支援教育の体制づくりに努めた。 | A | | | | | | |
| 関係機関と連携した相談体制の充実に努めた。 | A | | | | | | |
| | 子どもたちは学校生活を楽しく過ごしている。 | A | A | A | A | | |